次期学習指導要領 教科別まとめ　　小学校 No.03

審議まとめ（2026年10月5日）を**小学校の先生向け**にまとめ直しました

小学校版



算数

次期学習指導要領で、どう変わる？

小中高を6つの分野でつなぎ、証明と批判的思考を育てる



10秒でいうと　割合・比・分数の内容と順序を見直し。証明につながる「論理的に説明する活動」を充実

やさしく言うと

算数は、小・中・高で目標と見方・考え方をそろえる方向です。学習内容は共通の6つの「分野」で整理する案です。割合・比・分数など、つまずきやすい内容は、内容や順序の見直しを検討するとされています。中学校の証明につながる「論理的に説明する活動」も充実する方向です。算数の公式の英語表記は「Mathematics」に改めるとされています。

小学校はいつから？

全面実施	2030年度（令和12年度）から（見込み）
移行期間	2028～2029年度
告示	2026年度末の予定
教科書	2030年度から新しい教科書（2028年度に検定）

この冊子の中身

1 算数のポイント　4つ
2 主な変更点　6項目
3 現行と次期の比較（新旧対照）　4項目
4 授業時数
5 生成AI・ICTとの付き合い方　4項目
6 今からできる準備チェックリスト　6項目
7 次期を先取りする授業アイデア　1本
8 指導案（試案）　1本
9 現行の学習指導要領・解説（小学校）

無料 原田英語.com 次期学習指導要領ナビ

研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。クレジットは残してください。
審議まとめ（2026年10月5日）準拠・出典ページつき。告示前の方向性で、今後変わることがあります。2026年11月4日 版

サイトで見る

算数・数学の3行要約（全校種）

1. 小・中・高で教科の目標と「見方・考え方」の言葉をそろえ、学習内容を共通の6つの「分野」で整理する方向です。批判的に考える力や、証明などの論理的な学習を重視するとしています。
2. 中学校と高校に、数学の全体像や社会・仕事とのつながりを学ぶ「数学ガイダンス」を新しく設ける方向。高校では必履修の数学Ⅰに「社会を読み解く数学」を加え、数学A・B・Cを1つの新科目にまとめる案です。
3. 割合・比・分数のつまずき対策、教科書内容の精選、学年をこえた学び直しなど、だれもが「わかる」「できる」と感じられるための工夫を進めるとしています。

※数学A・B・Cを統合した新選択科目の名称は「数理活用（仮称）」などの案で検討中。「数学ガイダンス」は仮称。いずれも2026年10月の審議まとめ段階の案で、今後変わり得る。

1 算数のポイント

4つ

1 割合・比・分数の内容と順序を見直す

割合・比・分数などは、理解が難しく、身に付いていない子が相当数いるとされています。そこで、確実に身に付くよう、学習内容や並べ方の改善を検討する方向です。帯分数のような「足掛かり」の事項も、本当に必要か点検するとしています。 P165 P167 P171

授業では、たとえば 割合の単元の前に、かけ算・わり算の意味が分かっているかを短い問題で確かめてから入る。そんな確認が方向に沿う一例です。

2 「なぜそうなるか」を説明する活動

中学校・高校の証明（論証）につながる、論理的に説明する活動を充実する方向です。速さや割合の「みはじ」「くもわ」のような覚え方だけでは、かえって理解を妨げかねないとしています。最後は意味の理解を伴うことが欠かせないとしています。 P164 P171

授業では、たとえば 速さの問題で、図や数直線を使って「なぜこの式になるか」をペアで説明し合う時間をとる。そんな授業が考えられます。

3 小中高で共通の6つの分野

小学校の算数から高校の数学Ⅰまでを、共通する6つの「分野」で整理する案です。数と式、図形、変化と関係、データと確からしさ、論証、社会を読み解く数学の6つです。小中高の目線を合わせ、学びをつなぐことがねらいとされています。 P166 P167

授業では、たとえば 今の単元が6つの分野のどれに当たり、中学校のどの学習につながるかを、単元の初めに子供と確かめる。そんな工夫が一例です。

4 学び直しの時間をつくる

学年の区分は残しつつ、学校の判断で指導時期を前倒し・後ろ倒しできる方向です。まとまった時間をつくり、定着に課題がある単元を学び直せるとしています。分散学習など、認知心理学の知見をふまえた指導も有効とされています。 P174 P175

授業では、たとえば 以前の単元の問題を、間をあけて朝の時間や授業の冒頭に少しずつ解き直す。そうした分散学習の取り入れ方が考えられます。

2 主な変更点

6項目

1. 証明・論理的な説明の学習を小中高で強化（「論証」分野）

変化が激しい社会では、筋道立てて批判的に考える力（クリティカル・シンキング）が欠かせないとして、中学・高校で数学的推論や証明に関する学習を充実する方向です。小学校でも、中・高の証明につながる「論理的に説明する活動」を各単元で充実するとしています。資料編では、これまで「数と式」「図形」に散らばっていた内容を「論証」という1つの分野として独立させると説明されています。
P164 P165 P167 P171

2. 小 割合・比・分数など、つまずきやすい単元の内容と順序を見直し（小学校）

割合・比・分数は理解が難しく、身についていない児童が相当数いるため、確実に定着するよう学習内容や並べ方（配列）の改善を検討します。帯分数のような「足がかり」として学ぶ事項は、本当に必要か改訂作業の中で点検します。また「みはじ」「くもわ」のような暗記だけの指導はかえって理解を妨げかねず、最後は意味の理解を伴わせることが欠かせないとされています。小学校では社会・職業との関係を独立した内容にはせず、各単元の指導で充実するとしています。 P164 P165 P167 P171

3. 目標・見方・考え方を小中高で統一し、学習内容を6つの「分野」で整理

小・中・高で教科の目標の言葉をそろえ、「見方・考え方」も統一する方向です。新しい見方・考え方は「事象や言説を数理の視点から捉え、論理的、統合的・発展的、批判的に考察すること」で、ニュースや意見などの「言説」と「批判的」（建設的な意味で）が加わる案です。小学校の算数から高校の数学Ⅰまでの内容を「数と式」「図形」「変化と関係」「データと確からしさ」「論証」「社会を読み解く数学」の6分野で整理し、各分野を1～2の「区分」に分けて「統合的な理解・総合的な発揮」を示すとしています。教科名の統一は引き続き検討ですが、算数の英語表記は「Arithmetic」から「Mathematics」に改める案です。 P166 P167 P168 P169 P170

4. 学年の区切りをこえた柔軟な指導と学び直し（調整授業時数の活用例も）

学年区分は示しつつ、学校の判断で指導時期を前倒し・後ろ倒しできるようにし、まとまった時間をつくって定着に課題のある単元の学び直しや、興味を引き出す探究的な学習に使えるようにする方向です。新しい調整授業時数の「裁量的な時間」では、下の学年の未習得事項を学び直すプログラムや、算数の単元構想の研究・研修などが例に挙がっています。ただし系統性が強い教科なので、安易な時数の調整で定着に影響が出ないよう注意が必要とされています。高校では科目の組み替えの仕組みで、いわゆる「理転」の壁を下げる効果も期待されています。
P174 P175

5. 定着を支える指導の工夫（認知心理学の知見・帰納と演繹のバランス・ICT）

基礎的な知識・技能を確実に身につけるため、分散学習・検索練習など認知心理学や学習科学の知見をふまえた指導や、学習前の「レディネス」（既習事項の習得状況）の確認が有効とされています。具体的な事象から考えさせる帰納的な指導と、先に教師が原理を教える演繹的な指導を、子どもの実態に合わせてバランスよく使い分けるとしています。「間違ってもよい」という心理的安全性も重視されます。1人1台端末やクラウドを前提とし、AIドリルは質や教師の指導などの条件のもとで計画的に使えば効果的とされています。 P164 P174 P177

6. 内容の精選と、教科書で「必ず扱う内容」と「必要に応じて扱う内容」の区別

「統合的な理解・総合的な発揮」に欠かせない内容を中心に並べ、欠かせない内容でないものは精選するとしています。教科書を全部網羅して教える傾向があるとの指摘から、教科書の各内容が必ず扱うべきものか、必要に応じて扱うものかの区別（グラデーション）が分かるよう、教師用指導書での工夫を教科書会社に求めることも検討されています。資料編では、演習問題を基礎・習熟・発展に分ける、コラムなどには時数を配当しないといった例が挙がっています。 P173

3 現行と次期の比較（新旧対照）

4項目

黄色のマーカー＝次期で新しく入る・強く打ち出される言葉　~~取り消し線~~＝現行から消える・言い方が変わる言葉

項目	現行	次期（審議まとめの方向）
学習内容の区分の仕方	小学校算数・中学校数学は「領域」、高校数学は「項目」という名前で区分。	小学校算数～高校数学Ⅰまでを、共通の**6つの「分野」**（数と式、図形、変化と関係、データと確からしさ、**論証**、**社会を読み解く数学**）で整理し、さらに「区分」に分ける方向。P167 P170
見方・考え方	事象を「数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え」、「論理的、統合的・発展的に考える」こと。	「事象や**言説**を**数理の視点**から捉え、論理的、統合的・発展的、**批判的**に考察すること」。小・中・高で文言を統一する案。P169
数学的活動の位置付け	これまでの学習指導要領で、算数科・数学科の学習過程として位置付けられてきた。	「数学的活動」を個々の学習内容として規定するのではなく、**教科全体を通じて**充実に取り組む旨を規定すべきとされた。P178
評価規準づくり	各学校が、内容のまとまりごとの評価規準、単元の目標、単元の評価規準を作成。	「内容のまとまりごとの評価規準例」は**国が示し**、学校での**作成は不要**にする方向。算数・数学の「内容のまとまり」は**「区分」ごと・学年ごと**の「内容」とする方向。単元の目標がそのまま単元の評価規準になる考え方。P179

4 授業時数

高校：数学Ⅰは現行3単位→最大8新単位程度、数学Ⅱは現行4単位→6新単位（3単位）、数学Ⅲは6新単位、新選択科目は2～12新単位（現行は数学A・B・C各2単位）。1新単位は17コマ。「社会を読み解く数学」相当を新科目で学ぶ場合は数学Ⅰから減単可能（P81、P82）。小・中学校の算数・数学の具体的な時数は算数・数学の節には書かれていない（総論では、35コマを超える教科等から一律3-4%程度を「広く薄く」減じる考え方を示し、実数は今後示すとしている：P79）。

5 生成AI・ICTとの付き合い方

4項目

1. 生成AIの時代にこそ数学を学ぶ意味がある

数学の問題解決に生成AIが使われる場面が増え、数学を学ぶ意義を問い直す声もあります。しかし、生成AIで処理した結果が妥当かを確かめるにも、生成AIの仕組みを理解するにも、数学の素養は欠かせません。生成AIに振り回されない批判的思考力のためにも数学的な思考力が必要とされています。P166

2. クリティカル・シンキングの強化

AI技術やデータサイエンスが急速に進む変化の激しい社会では、論理的・批判的に考え判断する力（クリティカル・シンキング）が一層重要なので、数学的推論や証明などの学習を中・高で充実させます。P167 P171

3. AIドリルの使い方の条件

AIドリルは、①教材として一定の質がある、②教師の適切な指導助言がある、③子供が自分で学びを調整しながら使える、の3つが前提です。そのうえで計画的に使えば、知識を効率よく身に付けられるとされています。家庭学習が難しい子供にAIドリルを配る自治体の例もあります。P176 P177

4. ICT活用の例と、AIの扱いの機動的な見直し

効果的なICT活用例として、AIによる自動採点やデジタル教材・AIドリルの活用などが挙がり、国が改訂を待たず広く知らせることが重要とされています。学習科学をふまえたAI学習アプリなど新しい動きにも注目し、算数・数学でのAIの扱いは技術の発展に合わせて機動的に見直すとされています。P177

6 今からできる準備チェックリスト

6項目

- [ ] 今すぐ 単元に入る前に、その単元に必要な既習事項（レディネス）を5分ほどの小テストで確かめ、つまずきのある子供への手立てを用意してから始めます。 P164 P165 P174
- [ ] 今すぐ 授業の冒頭や宿題に、前の単元の問題を少し混ぜて思い出させる時間（分散学習・検索練習）を入れ、全員にまったく同じ問題だけを出すやり方を見直します。 P164 P174
- [ ] 今すぐ 割合や速さで「みはじ」「くもわ」を使っている場合は、数直線や図で意味を説明させる時間を必ず入れ、暗記だけで終わらせないようにします。 P164 P171
- [ ] 告示まで 小中の先生で、6つの「分野」（数と式、図形、変化と関係、データと確からしさ、論証、社会を読み解く数学）をもとに単元の系統表を作り、学校段階のつながりを確かめます。 P167 P170 P175
- [ ] 告示まで 現行学習指導要領に示された内容を確実に扱うことを前提に、教科書内の練習・補充・発展的な内容の扱い方や時数配分を教科会で点検します。次期課程での「必ず扱う内容／必要に応じて扱う内容」の区分は、告示・解説や教師用指導書が示された後に確認します。 P173
- [ ] 全面実施まで AIドリルを使う場合は、①教材として一定の質がある ②教師が適切に指導助言する ③子供が自分で学びを調整しながら使う、の3つを満たす使い方を校内で決め、計画的に使います。 P177

7 次期を先取りする授業アイデア

1本

小5　1単位時間（45分）

500円引きと450円引き、得なのはどっち？

「くもわ」に頼らず、数直線で「もとにする量」を見つけて、理由を説明し合います。

手順・ワークシート

ねらい

2つの値引きについて、もとにする量と比べられる量を数直線に表して割合を求め、「値引きの額が大きい方が得」とは限らない理由を筋道立てて説明できる。

流れ

- 5分 2枚の広告を見せ、「どっちが得？」と聞いて直感で手を挙げさせます。「500円引きの方が大きいから得」という考えを取り上げ、「本当にそう言えるかな」と問いを立てます。
- 8分 一人で、A店の値引きを数直線に表します。「2000円を1とみると、500円はいくつにあたるか」を考え、500÷2000＝0.25を求めます。
- 8分 同じようにB店を数直線に表し、450÷1500＝0.3を求めます。早く終わった子は、それぞれ「何割引き」かでも言い表します。
- 10分 ペアで、説明の型カードを使って「B店の方が値引きの割合が大きい理由」を説明し合います。聞き手は「何をもとにしたの？」と必ず質問します。
- 9分 全体で、「額で比べると」「割合で比べると」で結論が変わることを整理し、「得」とは何をもとにした話なのかを話し合います。支払う金額はA店1500円・B店1050円で、もともとの値段がちがうことや、何を買いたいかによって得の意味が変わることにも触れます。
- 5分 振り返りとして、「割合で比べるとき、まず何を確かめるか」を自分の言葉で書きます。

評価

【知識・技能】もとにする量と比べられる量を数直線に正しく表し、割合を求めているかを見取ります。【思考・判断・表現】「何をもとにすると」をはっきりさせて、額と割合のちがいを筋道立てて説明しているかを、ペアの説明と振り返りで見ます。説明がうまくいかない子には、数直線の「1」にあたる場所を指で示させます。

8 指導案（試案）

1本

小学校第4学年　算数　全3時間（本時は第2時）

どちらが「大きくふえた」？ ～もとにする大きさに目をつけてくらべよう～

中教審の審議まとめ（2026年10月5日）で示された、算数・数学の新しい「見方・考え方」の案「事象や言説を数理の視点から捉え、論理的、統合的・発展的、批判的に考察すること」と、割合など定着に課題のある内容の確実な習得という方向性を先取りした試案である。次期学習指導要領はまだ告示前であり、本案は審議ま…

指導案の全文

本時のねらい

図書委員会のお知らせ「いちばん大きくふえたのは2組！」が本当にそう言えるかを、差と倍の二つの見方で確かめ、もとの数がちがうときの比べ方を、関係図や式を使って理由を付けて説明する。

本時の流れ

- 6分　導入　架空の「図書委員会のお知らせ」を見る（先週と今週の図書室の貸出冊数。1組：20冊→60冊、2組：50冊→100冊。「いちばん大きくふえたのは2組！」）。お知らせの言葉を読み、自分ならどう思うかを考える。
- 10分　展開　一人で、ノートに図や式を使って「どちらが大きくふえたと言えるか」を考える。考えが一つできた児童は、別の見方でも考えてみる。
- 15分　展開　差で考えた考え（1組は40冊、2組は50冊ふえたので2組）と、倍で考えた考え（1組は3倍、2組は2倍なので1組）を発表し合う。二つの関係図を並べ、何をもとにして比べているかを確かめる。「もとの冊数がちがうとき、ふえ方をよく表しているのはどちらの比べ方か」を話し合う。
- 5分　まとめ　「もとの数がちがうときは、もとの数を1とみて何倍になったかで比べることがある」とまとめる。お知らせの言葉に戻り、「2組は冊数が多くふえた。1組はふえ方（何倍か）が大きい。」のように、どの見方で比べたかが分かる言い方を考える。
- 5分　まとめ　練習問題に取り組む（花だんの苗の高さ。ア：10cm→30cm、イ：20cm→40cm。よくのびたと言えるのはどちらか）。
- 4分　まとめ　ふり返りに「今日分かったこと」と「まだよく分からないこと」を書く。

PDF版：shidoan-sho4-sansu-fuekata-kurabe.pdf（ダウンロードコーナー）

9 現行の学習指導要領・解説（小学校）

PDF　**小学校学習指導要領（平成29年告示）（本文）**
https://www.mext.go.jp/content/20230120-mxt_kyoiku02-100002604_01.pdf

PDF　**小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 算数編**
https://www.mext.go.jp/content/20211102-mxt_kyoiku02-100002607_04.pdf

文部科学省の公式PDFです（クリックで開けます）。

ご利用について

- **研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。**
  （校内研修・教育委員会の研修・教員養成の授業・学年会・PTAなど）
- クレジット「原田英語.com 次期学習指導要領ナビ」
  （https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/）はそのまま残してください。
  各ページの下に入っています。
- 中身は中央教育審議会 教育課程部会「次期学習指導要領等に向けた審議まとめ」（2026年10月5日）ほか文部科学省の資料をもとに、原田英語.comが要約したものです。**告示前の方向性**で、答申・告示で変わることがあります。（仮称）の名前も今後変わる可能性があります。
- 文中の P〇 は審議まとめ本体（PDF）のページ、**資料編（1）～（3）P〇** は第3部 資料編（PDF）のページです（PDFのページ番号。印刷されたページ番号とは1つずれることがあります）。PDFで見ているときはクリックで原文が開きます。
- 授業アイデア・指導案は、審議まとめの方向性をふまえた原田英語.comのオリジナルの試案です。
- 最新の情報・ほかのPDFはサイトで：
  https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/download/（2026年11月4日 版）

サイトで最新版を見る